令和６年度　三重短期大学　学校推薦型選抜・社会人特別選抜（生活）小論文　解答例

問一　（60 字以内）

福祉分野、保健医療や就労などの分野をまたぐ支援を要する人が増えてきたため、地域の実情に応じた包括的な支援が必要だから。

（59 字）

問二　（80 字以内）

人と関わる仕事に就くことで、保護されるべき「客体」から、社会を支える「主体」になり得るような、「入口」の段階で「出口」を見据えた課題解決の道筋をつけられる支援。

（80 字）

問三　（400 字以内）

地域における多様なニーズに的確に対応するためには、分野ごとにわけられた「縦割り」の支援制度だけでは不十分であり、制度が対象としないような生活課題にも対応する「丸ごと」の支援が必要である。

筆者は、地域共生社会の実現のためには、さらに「丸ごと」の「先」を意識した支援が重要であるとしている。また、地域での支援は困難にぶつかれば戻ることができる「寄港地」のような役割を担うことが求められているとする。

私は、筆者の意見に概ね賛成である。しかし、実際にそれが可能だろうかという疑問もある。例えば、近所に住む高齢者のゴミ出しをたまにならできるかもしれないが、定期的に担うことができるかというと自信がない。つながりが強くなることは、負担も大きいように思う。公的な支援がある程度整った上で、地域社会がゆるやかにつながることができれば、誰もが社会を支える主体となれる地域共生社会に近づくのではないだろうか。

（394 文字）